

Ainu

「Ainu」はアイヌ語で「人」の意



「隠れたって、どこに居ようと・・・アイヌはアイヌだわな」

昭和初期に生まれ、時代の過渡期を生きた4人の古老。
その生き様とアイヌ文化伝承の今を伝えるドキュメンタリー。

溝口尚美監督作品

2018年 | 日本 | HD

◎製作・配給: GARA FILMS ◎協働企画・制作: 平取町立二風谷アイヌ文化博物館

◎製作・監督・撮影・編集: 溝口尚美 ◎アイヌ語監修・翻訳: 関根健司 ◎アイヌ文化監修: 山岸俊紀 ◎アイヌ音楽: 平取アイヌ文化保存会 ◎ムックリ(口琴): 関根真紀

◎オリジナル音楽: [O2MA RECORDS] YASUNOBU MATSUO ◎整音: 吉田一郎(ガリレオクラブ)

◎撮影協力: 平取アイヌ協会・平取アイヌ文化保存会・平取町二風谷アイヌ語教室・平取町・萱野茂二風谷アイヌ資料館・平取町の皆さん 他 ◎題字・宣伝美術: 東 學



日本の先住民族・アイヌ

Ainu

日本の先住民族・アイヌ。かつて、アイヌモシリ(アイヌの大地)と呼ばれた北海道の日高地方・平取町には、今も多くのアイヌ民族が暮らしている。アイヌ文化研究において多大な貢献を果たした故・萱野茂氏の出身地でもある。

1869年、明治新政府がアイヌ民族を「平民」として戸籍を作成し、同化政策や開拓を進めた結果、アイヌ文化は急速に衰退していった。一世紀半経過した今、生活スタイルを変容させながらも、アイヌ文化を伝承する努力を続けてきたこの地域には、現代のアイヌが「快活」に生きている。ドキュメンタリーの主人公は、個性多様な4人の「Ainu=ひと」たち。差別と貧乏を経験した人、伝統的な縫物を作る人、祖母のカムイユカラ(口承文芸)を聞き覚えている人、イオマンテ(熊送り)などの儀礼儀式を小さい頃に見聞きた人。文化伝承のために、地域のリーダー的存在として、積極的に活動する。昭和から平成のアイヌの変容を示す生き証人でもある「ひと」の姿を描いたドキュメンタリー。



この映画には、沙流川流域に住む古老4人の想いが詰まっています。アイヌのアイデンティティや文化の継承活動にかける気持ち、自身の人生経験の中で感じたこと、悩んだことなどがしっかりと語られています。現代を生きる我々が感じ取るべきメッセージをたくさん含んでいますので、四季折々の景観や住民の姿も含め、アイヌの今を知っていただきたいと思います。

二風谷アイヌ文化博物館館長 長田 佳宏



私はかつて、アイヌの人々が集住する村「二風谷」の住人として11年間暮らし、今も頻りに訪れている。この映画には、お世話になったエカシやフチの笑顔と優しさ、そしてアイヌ民族の真実の暮らしが溢れている。

札幌大学教授 本田 優子



監督・溝口尚美

1995年よりフリーで、様々な分野の映像制作に携わる。2004年にニューヨーク移住。2008年から6年間、非営利団体を共同設立・運営し南米やネパールの先住民族と映像の協働制作を行う。2022年、米国で携わったドキュメンタリーがエミー賞を受賞。フリーでの映像制作を継続中。

アイヌの歴史や人生の苦難の経験の語りに終わらないドキュメンタリー。現在と未来のコミュニティをつなぐ架け橋の記録とも言える。ブラウン大学・日本語講師 マクファーソン苗美(アメリカ)



「文化だけではなく、同時代を生きる人たちのことを知ってもらいたい」そう考えて企画した上映会は大好評でした。監督のトークとあわせてお勧めします。

国立民族学博物館 准教授 齋藤 玲子

アイヌの古老達が厳しい人生を乗り越え、アイヌ語と文化を伝える姿に密着したこのドキュメンタリーを、ワシントンDCのスミソニアン博物館で上映できた事は、本当に光栄でした。

マザータング映画祭共同代表 ジョシュア・A・ベル

ネウン ポカ アイヌ プリ

なんとかして

アイヌの風習を

チキ ルスイ クス

私共は復活させたいのです

「アベヘコテ カムイノミ(火の神への祈り)」より
文: 萱野 茂

ブルーレイ / 81分【劇場版】 ライブラリー価格 70,000円(税別) ※全編日本語字幕版
DVD / 81分【劇場版】 ライブラリー価格 60,000円(税別)
DVD / 61分【教材版】 ライブラリー価格 50,000円(税別)

【ご要望にお応えして遂にDVDとブルーレイが完成!】

●お申し込み・お問い合わせは



【飲酒運転撲滅宣言企業】
(映) 株式会社 博映商事



TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp